



木戸 俊治

少子高齢化対策とまちづくりの推進を

問 本町の人口は、少子高齢化そして転出の増加により急激に減少している。2030年には80

39人、また高齢化率も50.3%と推計されている。

答 日本創成会議のデータによると、人口再生産力を示す20歳から39歳の女性の減少が著しく、全国でワースト24位と町政運営上非常に深刻な状況である。

そこで、早急に取り組むべき施策及び現在取り組んでいる施策の現状について伺う。

答 日本創成会議の人口レポートは、本町が直面する極めて厳しい現実を改めて認識するものである。これまで自立したコミュニティの育成や地域の魅力づくり、将来を担う人材育成等の取り組みを進めてきたが、今後

能勢町版まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に取り組みたい。

問 転出の理由等分析、把握が出来ているか。また若者向けの定住促進住宅の確保や、NPO法人等と連携し、積極的に空き家の斡旋を行う考えは。

答 転出先として近隣市町への転居が多く見られ、総合的な住宅環境を求めて転出するのを見極めて慎重に検討したい。また転入希望者の受け入れ体制についても考え、現在制度設計を行っている空き家バンク制度の早期実現に向けて取り組みを進めたい。

問 少子化対策として、出産祝金や保育料、幼稚園費の減額、助成等を行う考えはないか。

更に、地方創生関連法案に伴うまち・ひと・しごと創生に係る施策について、本町の今後の取り組み及び現状について伺う。

答 保育料、幼稚園費の減額については、子ども子育て支援新制度の移行に伴い、出来る限り保護者の経済的負担が現行よりも増加しないような制度設計を検討したい。地方創生関連法案に係る施策ということで、国の方に申請をしているが、いずれ国の方からヒアリングがあると思う。今の能勢町にとって最も必要な部分を柱にしていきたい。子ども・子育て支援、働く場の確保、教育も含め、少しでも活性化して、人口の減少に歯止めがかかる施策をつくっていききたい。

一般質問



大西 則宏

町長の政治姿勢に不信任！

なぜ答弁に責任を持たないのか！
なぜ決断できないのか！

問 現時点で何をどう認識し、対処しようとしているのか。責任を全うしてもらうため問責決議、当初予算の修正、附帯決議、2度目の問責決議を行ったが、その重要性を認識し、尊重しているのか。答弁からはその姿が感じられない。住民の信を受けて就任した町長なら、なぜ積極的に自分の意思を表さないのか、方向性を示さないのか。自身の答弁に責任を持たないのか。財政が厳しい時期だからこそ、「私はこう考えるから、私の責任で何をする」と、なぜ言えないのか。その場しのぎの答弁に終始することが極端に多い。真意はど

町長の政治姿勢に不信任！

答 行政運営に対する全ての最高責任者は私であると自覚している。議会の答弁の中で具体的な言い回しはしなかったかもしれないが、その場限りで言い逃れをしているとは思っていない。

問 能勢町という組織の力を有効に発揮させるのは、トップである山口町長の姿勢次第である。しかし、議会の答弁において、脈絡のない、統一性のない答弁を繰り返す、実際行動を起こさない。決断しない、行動もしないということは、自治体の長としてあってならな

いことである。何とか町長に決断力、主導性を出してもらいたいという趣旨での問責決議、附帯決議であったが、この定例会において、そのことを町長は全く理解しようとしぬい。それで、本当に住民の信を得ていると考えているのか。自ら、もう一度住民の信を問う考えはないのか。今までの問責決議、本日的一般質問は、山口町長への不信任の表明である。

答 しっかりと受けとめたいと思う。ただ、なんでも実行するでは、たちまち財政破綻をきたす。中途半端な答弁をしているという指摘だが、時間をかけ、吟味・選択をしていきたい。